折井 細川 合~桧川 生筋 原~川物 口語

森の道

迷いやすい

H22.5に道迷いの遭難事故発生
2日にわたる大捜索。
無事発見。

尾根にはアカガシなどの照葉樹林

城戸木森△908m

城戸木森

一等三角点

大郷山

広大な国有林

坂島山

樹齢850年

日本一の大檜と称讃された

神が周囲を守る

折合の大檜

坂島

昭和3年営林署が入った時にはすでにあったという大きな斧の跡が今でもくっきり残る。

平成26年台風で大きな主幹は折れてしまったが、圧倒的な存在感は健在。

昭和2年
折合製品事業所
簡易製板所
開設

もっとも重要な生活の道だった。物資や情報など あらゆるものが人の足と背によって行き来していた。

四十畑山
芋をとっぱり作っていた

折合

河内神社
山の神

猿屋口

折合往還

おひそ様

中津川往還

成川へ

茶わかし場

藩政時代、中村藩役所から出張してきた山回り役人や行政管理の巡行ルート。
この場所で折合、中津川の地下役人が羽織袴で出向き草鞋や弁当を用意してお茶をわかしながら待ち、引き継ぎをしていた場所。
このあたりは道が迷いやすい。

折合川の谷にも車道が敷設され インクラインと二段設置する大がかりなものであった。

折合川

地蔵様が折合境

小味野々川口線(県道)
(S34.4.20認定)

ヒノキ
人工林が広がる

ショートカット工事

重岩峠
753

折合が大正町だった時代
大正郵便局から この道を通って郵便さんが配達にきていた。

檜生原神社

檜生原大椎

井組の郷里

檜生原の大椎
推定500年
山崩れにより今の場所に移動。
高知を代表する椎の巨木。

檜生原往還

東畑谷
503

のどけき里山

西谷

東谷

相去

河内神社

寺野

寺野峠

武義くん

政子さん

折合
青木武義さん政子さん
ご夫妻にたくさんの話を聞きここに記す。

「ほき」往還にあった
平坦な道で片側はヤブ片側は山すそで前方が見通せる長い道のこと。

市又

コビの川小中学校

河内神社

北の川

宝積寺

広瀬峠

大谷峠
482

鳥手

貯木場があった

川口小学校

愛宕寺

弓場神社

明治43年の高知市までの道のり
大正江師～芳川～相去～
中神の川～宮内～東川角
仁井田～久礼(泊)
久礼～船で高知市材木橋へ。
「掻き集め記」より

天気続きの四万十川の日ごろの流れ量を「ひみず」と(日水)呼んでいた。

秋丸

川口

河内神社

川口橋
昭和4年

南川口

不動明王

ヤマセミのつがいがよく見られる

カバの魚

若井

大向

天ノ川

宮内

口神の川

中神の川

口神から北を見る。
四万十の山々の織りなす山襞がずっと先まで続いている

ピオーネ畑

井細の流れ清く澄み
光さやかな朝のまど
旧桧生原小学校歌

井細川

檜生原

神の川

四万十町全図(1:50000)には
------で示された往還道が
網の目のように記されている。
車道が開かれて100年にも満たないが
この道のほとんどは人が通ることもなく
何百年も厚史を刻んできたことすら
忘れられつつある。
かつて、人里を結び、大切な生活の
道であった往還道。
この道を行き還りしてきた時代は
静かで美しい風景の中で風化している。
この道のやわらかい黒い土の上を歩き
峠の向こう側へ消えていった人達は
いったい何処へ行ってしまったのだろう。

幻の47林班

窪川・中津川担当区管内の国有林では
ここにあった47林班だけが
欠番になっている。

森林軌道は昭和3年に営林署が入ってきて、木材搬出のために朝鮮人労働者がたくさん入ってきてつくられた。

車道ができるまでは、木材を谷流しして、四万川を筏に組んで下田まで流してはこんだ。

ミツタケ原木用に植えられた

折合川の路線定明は H27.3 新たに廃止された

H27.3
大崩壊

折合から川口までの距離約12km
昭和初期に国有林材輸送の為に
トロッコ軌道が敷設された。
木炭機関車が14～15輌のトロッコに
丸太を乗せて川口にあった貯木場まで
運んだ。一日一往復。最後尾には
客車があり、行き帰り住民が利用した。
昭和29年からはトラックとなり廃線された。
着工53.完成59
13.785km

水持山

水のこども
みくまりちゃん

江戸時代に水源山という名の下に、自然林としての保護を加え、川上の原点である奥深い山の源流域は、山に対する信仰心とともに侵すべからずの信条が形成された。
当時から伐採の際には全てを伐らず一定区域は水源涵養林として主体的に残してきた。

風がわたるように空を飛べたならどんなに気持ちいいだろう

空川営林署の木材生産事業は折合→奥神→桧生原と移動しながら良質の木材を産出しつづけてきた。
(奥神製品事業所は昭和14年に廃止)

事業所跡

奥神の川

営林署の事業所には呉楽に映画上映されていた。
米奥からも山越えで観にきていた。

遅越山

観音堂

川奥

米奥

米奥小学校

米の川城跡

大山神社

国木前山

枝折山
806m

迷いやすい

迷いやすい

クランクになっていて迷いやすい

折合は昭和29年に窪川町に編入されるまでは藩政時代より上山郷(大正町)であった。
行政、物資、人、あらゆる交流があり、特に中津川との縁が深かった。

往還道は馬が通れる幅で整備されていた。
馬は力も耐久性も強く粗食にも耐える「土佐馬」という小型の馬と思われる。

谷間で下ろしていた時往還の上の方から女の人の「ムラ人、助けて」と求めて叫んでいるのが見えた。谷をこえてかけつけると、枯れたツガの枝が落ちて長者ヶ奈路だけなった。

松ヶ峠

155

140